

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2614102172		
法人名	医療法人松寿会 介護サービスセンター小野		
事業所名	グループホーム小野		
所在地	京都府京都市山科区勤修寺閑林寺町83-6 (電話) 075-575-5533		
評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年11月13日	評価確定日	平成20年1月10日

【情報提供票より】(2007年9月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算	7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階建ての	3階 ~	3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	2,000~ 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,500 円

(4) 利用者の概要(9月25日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	1名	要介護2	3名
要介護3	3名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 84.7歳	最低 79歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	共和病院 小野歯科 奥沢眼科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京都市醍醐駅の北側の幹線道路沿いにあり、診療所と通所リハビリテーションとが併設しているホームです。法人内の連携がよく取れており、健康管理面や食事の栄養バランス面など専門家に相談することができたり、健康フェアなどのイベントでは地域の住人との交流することができます。ホームでの入居者の生活は、「ゆっくり、一緒に、楽しく」を理念に、個々のペースで楽しく過ごすことができるように、職員が気を配りながら支援しています。そして、家族と過ごす時間も大切にされ、少なくとも月に一度は来所してもらえるようにしています。また、自己評価や外部評価を活かして課題を持ち、職員全員で話し合いながら、改善に取り組んでいる前向きなホームです。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果を受けて、職員間で話し合われた結果、玄関を家庭的な雰囲気工夫したり、入居者とスタッフが一緒に同じ食事を摂るようになったり、様々な取組みを行っています。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者が一通り記入し、カンファレンスで読みあわせながら作りあげられました。また、優先順位をつけ改善計画を立てて取り組んでいます。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	民生委員や地域包括センター、家族、入居者、職員の出席があり、ホームの状況報告、ヒヤリハット、避難訓練等の議題について報告を行っています。また、参加者から、“認知症についての理解を広げていくこと”や“ボランティアの受け入れ”等についての提案があります。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月に1度の手書きのカードや法人で発行している季刊誌があり、定期的に郵送しホームでの様子を伝えていきます。また、面会も少なくとも月に一度は来てもらえるように利用料は振込みにしていません。面会時に直接家族と話をし伝える機会を作っています。面会に来られた時や運営推進会議などに、直接希望や意見を聞く機会を設けています。得られた意見は、カンファレンスでその対応を話し合っています。また、苦情は苦情シートに記録を残し、対応されています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
④	ホームの周囲に民家がなく、自治会の活動もありませんが、地域の小学校の運動会やお祭りに行ったり、法人内の健康フェアに参加し地域の住人との交流する機会を持っています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームとして、「ゆっくり、一緒に、楽しく」という理念を掲げています。「認知症になっても地域の中で暮らしていくことができるように」という思いを持って開設されていますが明文化されたものではありません。	○	職員で話し合い、「地域と共に」という意味を含んだ理念を加えてみてはいかがでしょうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所の個人のロッカーに理念を貼ったり、朝の申し送りの時に理念を振り返り、意識付けをしています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの周囲に民家がなく、自治会の活動もありますが、地域の小学校の運動会やお祭りに行ったり、法人内の健康フェアに参加し地域の住人との交流する機会を持っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を受けて、玄関を家庭的な雰囲気工夫したり、入居者とスタッフが一緒に同じ食事を摂るようになったり、様々に取り組みを行っています。今回の自己評価は、管理者が一通り記入し、カンファレンスで読みあわせながら作りあげられました。また、優先順位をつけ改善計画を立てて取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や地域包括センター、家族、入居者、職員の出席があり、ホームの状況報告、ヒヤリハット、避難訓練等の議題について報告を行っています。また、参加者から、“認知症についての理解を広げていくこと”や“ボランティアの受け入れ”等についての提案があります。	○	運営推進会議の中での意見や提案が、実際のサービスにつながっていくような取り組みになることを期待します。

グループホーム小野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加の案内はしていませんが、議事録を直接持って行き報告しています。行政からの地域関係者連絡会議などの参加をしています。	○	行政の担当者と、会議の報告やボランティアの受け入れなどの際に、情報交換を行えるような関係づくりを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、請求書と一緒に手書きのカードでその人の暮らしや様子を書き、郵送で送っています。また、ホームの行事や様子が載せられている法人で発行している季刊誌があり、定期的に通っています。面会も少なくとも月に一度は来てもらえるように利用料は振込みにしていません。面会時に直接家族と話をし伝える機会を作っています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会にこられた時や運営推進会議などに、直接希望や意見を聞く機会を設けています。得られた意見は、カンファレンスでその対応を話し合っています。また、苦情は苦情シートに記録を残し、対応します。	○	家族アンケートの実施を通して、直接言いにくい家族の思いを聞く機会を作ってはいかがでしょうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や退職者が少なくなるよう努力はしていますが、職員の交代は避けられないこともあります。新しい職員は重った勤務にならないよう、馴染みの顔が常に見られるように配慮し、混乱しないように支援しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通しての研修計画はありませんが、適時に研修を受けられるように配慮しています。参加した研修は報告書を記入し、回覧して周知を図っています。必要に応じて伝達研修を行っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、地域関係者連絡会議に参加し、情報交換を行ったり勉強会などがあり、ホームのサービスに活かしています。また、近隣のホームとも相談し会える関係が築けています。	○	管理者のみの交流ではなく、スタッフの交換研修などの取り組みを行い、ホームのサービスの見直し等につなげていくことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族だけではなく、本人にも来所してもらい、ホームの雰囲気などを体験してもらっています。また、入所後馴染んで生活できるまでは、職員が気を配り、家族とも連絡を取り合いながら支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除の仕方や言葉遣いなど、日常生活の中で教えてもらう姿勢で接しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を一部取り入れ、以前の暮らし方の情報を得て、入居時に記入し、日々知った情報は記録に残しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族、本人から意向を聞き、カンファレンスを開き、介護計画を立案していますが、十分な話し合いになっていないこともあります。	○	状態の変わりなかった入居者も、カンファレンスでケアの方向性や細かな対応方法を話し合われることを期待します。また、出席できない職員にも意見を求める取組みもあれば更に良いのではないのでしょうか。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月に1度、カンファレンスを行い見直しを行うことに決められていますが、計画作成担当者の交代が続いたこともあり、徹底できていません。	○	介護計画の期間を意識し、定期的な見直しを徹底したいと考えています。期間をわかりやすく表示することや、定期的な計画の見直しを期待します。

グループホーム小野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々の入居者の希望に合わせて、ダンス教室に通う支援をしたり、喫茶店にお茶を飲みに行ったりしています。希望のかかりつけ医への同行支援も行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と話し合い、かかりつけ医を決めています。併設の医院との連携も取れていたり、必要に応じて歯科の往診も受けることができます。また、希望に合わせて入居前からのかかりつけ医に続けて通院している方もいます。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の重度化には、家族や医師とも話し合いを重ねながら、ホームでできる限りの対応を行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いは「穏やかで丁寧」を心がけています。不適当な言葉遣いが見られた時には、その都度注意しています。また、個人情報は事務所の鍵付きの書庫に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、個々の入居者のペースで過ごすことのできるように支援しています。朝、起きる時間や就寝時間なども一人ひとりに合わせています。また、外出も希望にそえるように支援しています。		

グループホーム小野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に行き物に行ったり、献立を立てています。また、入居者の楽しみや出番ができるよう調理や後片付けも一緒に行っています。また、職員と入居者が同じものを楽しみながら食べるように支援しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前10時ごろから午後4時ごろまでの間で、希望に合わせてゆっくと入浴できます。夜間に入浴希望があれば、体制を整えることも考えています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や調理、洗濯、ゴミ捨てなどの家事や草花の世話、ダンスなどの趣味を楽しみごとや出番とし、それがやりがいとなってできるように支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩や買い物に出かけたり、入居者の希望で外食やドライブに行ったり、遠くに行けない入居者は日光浴ができるよう支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームはデイケアサービスや診療所などの複合施設の3階にあり、エレベーターにはロックがかかっています。防犯上や解除に業者の手が必要なことから、ロックを解くことはできませんが、外に出たい時に外出できるよう努力しています。また、ロックがかかっていることは、家族にも説明し了解を得ています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間2回は消防訓練を行っています。近隣に民家はありますが、病院の独身寮があり、協力が得られることができるよう働きかけています。	○	近隣の消防団にも、ホームのことを知ってもらい、協力が得られるよう考えています。是非、実現されることを期待します。

グループホーム小野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に1~2回、法人の病院の栄養士に献立を見てもらい、栄養バランスや指導を受けています。スープの中に野菜を多く入れることで野菜が十分に摂れるように考えられていたり、好みや嚥下能力に合わせたものを提供できるように支援しています。毎食の食事量のチェック、必要に応じて水分量のチェックを行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く区切りのない間取りになっていますが、玄関に暖簾をかけたり、観葉植物を置いて、空間作りを行っています。また、季節を感じるできるように、カレンダーやクリスマスの飾り付けがされています。窓際のソファやリビングでそれぞれが居心地良く過ごせるよう工夫しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にできるだけ使い慣れた家具を持ち込んでもらうように話しています。居室は十分な広さがあり、冷蔵庫、テーブル、椅子などの家具の他、仏壇や以前に作られた折り紙や鞠などを飾り、その人らしい部屋づくりを心がけています。		